

山形県障がい者相談支援従事者研修 (現任研修)

インターバル実習の対応について

<実習協力事業所向け>

インターバル実習の目的

- 1 事例を通し、本人の意思決定に基づく支援や、チームアプローチの支援ができているかなど、普段の業務の見直しを行っていく。
また、新たな視点や気づきを今後の業務にいかしていくことができる。
- 2 事例を通し、その方が生活する地域の実情を知り、個人の課題が地域全体の課題となっているのではないかという視点を持ち、地域への働きかけのきっかけや方法を学んでいく。
- 3 基幹相談支援センターや委託相談支援事業所とのつながりを持ち、普段の業務の中でも連携しながら支援にあたっていけるように関係づくりを行う。

令和5年度山形県障がい者相談支援従事者研修 現任研修の流れ

1日目:9月26日(火)講義

2日目:10月19日(木)演習1日目～意思決定支援

3日目:10月20日(金)演習2日目～チームアプローチ

インターバル実習 ※今年度山形県では1回実施予定

4日目:11月10日(金)演習3日目～GSV・コミュニティワーク

インターバル実習までの流れ

<実習までの流れ>

受講者が各自、9月29日までに実習先に電話連絡することになっているため、下記期間内で日程調整をしてください。

●実習期間:10月23日(月)～11月8日(水)

※事務局に日程等の連絡をする必要はありません。

実習課題は、事前に送付します。資料内容は別紙内容①～⑦となります。

現任研修 インターバル実習

<実習課題>

- ①事例報告書
- ②エコマップ
- ③ストレングス・アセスメント票
- ④サービス等利用計画案
- ⑤週間計画案
- ⑥地域アセスメントシート
- ⑦マイライフマップ
- ⑧地域変革のためのヒアリングシート
- ⑨インターバル報告書

事前課題として取り組んだ
①～⑧について、
演習1・2日目を終えて
各自追記・修正したもの、

⑨は演習1・2日目に記入した
ものを使用

マイライフマップについて

新たにマイライフマップというものを事前課題に追加しています。

「マイライフマップ」とは、その方を中心にして、普段から利用していたり、行きつけになっている場所や、関係機関、その他住んでいる場所にある様々な資源をマップとして見える化したものです。

そうすることで、普段の生活の様子や地域資源、その方のニーズにあった生活を支える上でどのような状況なのか、またその地域が抱える課題などをより具体的に考えられる材料となります。

インターバル実習の流れ

※各受講者の実習課題①～⑦を実習対応先(圏域の相談支援事業所)に送付しています。

※⑨「インターバル報告書」については、各自コピーして実習対応者分1部を準備して訪問。

<実習当日の流れ>

- 1 受講者が、自分の事例の概要について5分でプレゼン(計画案の内容も含む)
- 2 受講者が、演習1・2日目を終え「意思決定支援」「チームアプローチ支援」の観点から設定したゴールの説明。それに対して演習で出たアイディアの説明。
これから自分が取り組んでいこうとしていることの説明。
- 3 受講者が事例の方のマイライフマップを説明。その人がより豊かな生活を送っていく為に必要だと考えたこと、地域の資源を利用したり、足りない資源を踏まえて説明。
- 4 受講者と実習先とで意見交換を行う。 終了後「インターバル報告書」の所定の欄に署名捺印する。

※所要時間:一人30～40分程度。

※実習のねらい:「地域の基幹相談支援センター等を活用する」

インターバル実習のチェックポイント

1. わかりやすく、ポイントをまとめて説明しているか。
2. 演習で出たアイディアで、受講生が取り組んでいこうとするところに着目し、アドバイスを行う(受け入れ側で実際にやってみた事例なども交えたり、取り組んでみようとすることに共感し励ましなど行う)
3. 地域を見た時に、同じような課題を抱える事例などを通して、本当はもっと地域でこんなサービスや資源の利用方法があるのではないかなど**意見交換**を行う。(課題解決の方法の糸口を見つけられるように)

※受講者の気付きに対する助言と**意見交換**をお願いいたします。

（参考） インターバル実習の流れ

※受講者に伝えている内容

＜実習後の流れ＞

- 1 実習先から受けたアドバイスや意見交換でインターバル期間中の気づきを実習課題⑨「インターバル報告書」の項目1, 2の③部分に各自記入する。

※「インターバル報告書」項目1の④部分も、研修4日目まで（インターバル実習前又は後）に本人に会って提案した結果について記入する。